

令和6年度(2024年度) 北海道北見工業高等学校 学校評価アンケート集計結果(教職員)

【各項目の評価】 ~3. 1)十分である、 B(3. 0~2. 1)おおむね十分である、 C(2. 0~1. 1)不十分である、 D(1. 0以下)改善を要する

項目	評価項目	今年度		令和5年度	
		評価	平均	評価	平均
心	1 校則やルールだけでなく、人として正しい判断を行い、行動ができる様に指導できた	A	3.3	A	3.1
	2 自分自身を大切にし、他者を思いやる心を持たせることができた	A	3.2	B	3.0
	3 成年年齢引き下げに対応した指導ができた	B	2.8	B	2.6
学 習	4 授業において必要に応じ適切な生徒指導をおこなえた	A	3.2	A	3.2
	5 シラバスに則り、科目の全体像(授業内容や評価方法等)の説明を行い、授業に取り組みせることができた	A	3.2	A	3.2
	6 3観点に基づく観点別学習評価を実施することができた	A	3.2	A	3.4
	7 学習評価を生徒の学習改善・自身の指導改善に繋げることができた	B	3.0	B	3.0
	8 基礎的・基本的な知識や技術、学力の定着を図る授業を展開できた	A	3.1	A	3.1
	9 ICTの活用を積極的に行うことができた	B	2.9	B	2.9
	10 工業に関する興味・関心を伸長できた	B	2.9	B	2.8
	11 資格取得をとおして学習意欲の喚起ができた	B	2.9	A	3.1
	12 座学だけでなく実技をとおして実践的・体験的な学びができた	A	3.2	B	3.0
	13 本校で学んだ工業技術を活用し地域への貢献ができた	B	2.9	B	2.9
	14 地域の教育資源(官・民・学問わず)を積極的に活用し、工業教育の充実を図れた	B	2.9	B	2.9
生 活	15 社会の変化に対応した校則の見直しを行うことができた	B	2.6	B	2.2
	16 公共交通機関や自転車乗車等のルールやマナー指導について 関係機関と連携して取り組めた	B	2.8	B	2.8
	17 生徒が健康で安全な生活を送るための指導体制となっていた	B	2.9	B	2.9
	18 いじめや生徒の悩みに係わる相談について、スクールカウンセラーや各関係機関等との連携が図られていた	A	3.1	B	2.9
	19 いじめは絶対に許さない姿勢にたち指導を行えた	A	3.5	A	3.4
	20 いじめや指導事故の未然防止のために日常的な生徒指導、生徒理解に努めることができた	A	3.4	A	3.3
	21 いじめや指導事後が発生した場合、組織的に迅速に対応し、その解決に向けて取り組むことができた	A	3.2	A	3.2
	22 情報モラルに関して適切な指導ができた	B	3.0	A	3.1
進 路	23 進路実現に向け、積極的な取り組みができた	B	3.0	A	3.3
	24 3年間を見通し計画的な進路指導を実施できた	B	2.9	A	3.1
	25 生徒や保護者等に対して有益な情報の発信を出来た	B	2.8	B	2.9
	26 進路データを整理し教員に対して有効な進路情報の発信や提供を行うことができた	B	3.0	B	2.9
健 康 安 全	27 教育的サポートが必要な生徒に適切な対応ができた ①情報共有 ②外部機関とのつなぎ ③生徒理解・自殺予防に必要な研修を行うことや研修への参加	B	3.0	B	2.8
	28 生活上の安全に対する指導をおこない、安全意識を向上させた ①防災 ②防犯 ③交通安全	A	3.3	A	3.1
	29 新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じた対策を行った	A	3.1	A	3.2

特別活動 他	30	ホームルーム活動や生徒会活動は、生徒にとって充実した学校生活を送るためのものとなっている	A	3.1	B	2.8
	31	生徒会行事(北工祭、北工競技大会等)は、生徒にとって有意義なものとなっている	A	3.1	B	2.7
	32	部活動は活性化が図られ、生徒にとって有意義なものとなっている	B	2.9	B	2.6
教職員の 協働	33	分掌間、学年間、学科・教科間等の連携強化を意識し、教育活動を行った	A	3.2	B	2.8
	34	報告・連絡・相談の徹底を行った	A	3.3	A	3.1
	35	危機管理マニュアルや業務継続計画の不断の見直しを行い、学校安全意識の高揚に努めた	A	3.1	B	2.9
	36	一人一人が本校の宣伝マンであることを自覚した行動をとった	A	3.2	B	3.0
	37	公務員としての自覚を持ち、不祥事のない行動をとった	A	3.7	A	3.7
保護者等や 外部との 連携	38	保護者等との信頼関係の維持・確立はできた	A	3.2	A	3.1
	39	地域や外部機関との適切な信頼関係を維持・確立し、協力体制はとれていた	A	3.3	A	3.2
	40	Webや報道機関の活用、イベント開催等により、学校の情報発信や宣伝を行うことはできた	A	3.2	B	2.8
	41	中学生やその保護者、中学校教員に積極的な情報発信・情報提供を行い、学校の宣伝に努めた	A	3.1	B	2.9
働き方 改革 業務改善	42	ワークライフバランス(仕事と生活の調和)を大切にし、勤務時間を意識した適切な時間管理ができた	A	3.3	B	2.8
	43	合理化の視点も持ち、業務改善に取り組めた	A	3.2	B	2.9
	44	計画した部活動休養日を適切に実施し、心と身体の休養・健康に努めた	A	3.4	B	3.0
	45	コアチームを結成し、働き方改革に取り組めた	A	3.3	B	2.5